

東日本ユニオン

2018春闘NEWS

JR東日本労働組合
発責 教育・広報部

2018年1月25日 No.1



2018春闘 スタート 労使フォーラム開催

経団連に加盟する企業の労務担当者らが集まる「労使フォーラム」が、1月22日に東京都内で開催され、2018春闘が本格的にスタートしました。2018春闘をめぐっては、安倍首相が「3%の賃上げ」を求めたのに対し、経団連も前向きに検討する姿勢を示しています。一方、労働側の代表である連合は「4%程度の賃上げ」を求めており、全体的には賃上げにむけた流れがあると言えます。

翌日の1月23日には経団連・榊原会長と連合・神津会長によるトップ会談が行われ、それぞれの主張をぶつけ合いました。

経団連・榊原会長

今まで4年間、多くの企業でベースアップを含む賃上げを行ってきた。今回は3%の賃上げという社会的期待を意識したうえで、前向きな対応を呼びかけている。

連合・神津会長

連合はベースアップを2%程度とし、定期昇給と合わせ4%程度の賃上げを求めており、多岐にわたって議論したい。

中小企業の賃金水準は、大手追従・準拠からの構造転換にむけ、労使の歯車が回り始めている。大手と中小との格差是正に取り組む。

前述のとおり、経団連の榊原会長は賃上げに前向きな姿勢を示していますが、ボーナスや手当などを含めた「年収ベース」での賃上げを会員に呼びかけており、月例賃金の引き上げを強く求めている連合は、経団連との対決姿勢を鮮明にしています。

賃金の引き上げは、闘って勝ちとるもの！

今2018春闘も「5年連続で官製春闘」などと報道されていますが、賃金の引き上げは私たち働く者の団結力を背景として「労使の交渉により勝ちとるもの」です。そのために東日本ユニオンは結成以来、一貫して「JR労働者の力の結集」を呼びかけています。

私たち働く者自身が闘わなければ、経営側は自主的にコストである賃金を引き上げようとはしません。今2018春闘で賃金引き上げを勝ちとるために、職場からJR労働者の力を結集させよう！